

病害虫発生予察注意報(第2号)

平成25年3月29日
神奈川県農業技術センター所長

病害虫名：ヒメトビウンカ（縞葉枯病）

作物名：水稻

- 1 発生地域：県内全域
- 2 発生量：多
- 3 注意報発令の根拠

- (1) 平成25年1月21日～31日にかけて、県内14地点の畦畔でヒメトビウンカの越冬密度を吹き出し法により調査した。その結果、越冬密度は13地点で前年より多かった。県内の越冬密度の平均126頭/9m²は平年の県内平均（19.8頭/9m²）に比べて多く、過去10年間で、最も高い値だった（図1、表1）。
- (2) イネ縞葉枯病ウイルスの保毒虫率検定（ラテックス凝集反応法）の結果、定点における保毒虫率の平均は1.0%（平年0.6%）だった（図1、表2）。2地点において、1987年以来初の4.0%以上の保毒虫率が確認された（表2）。

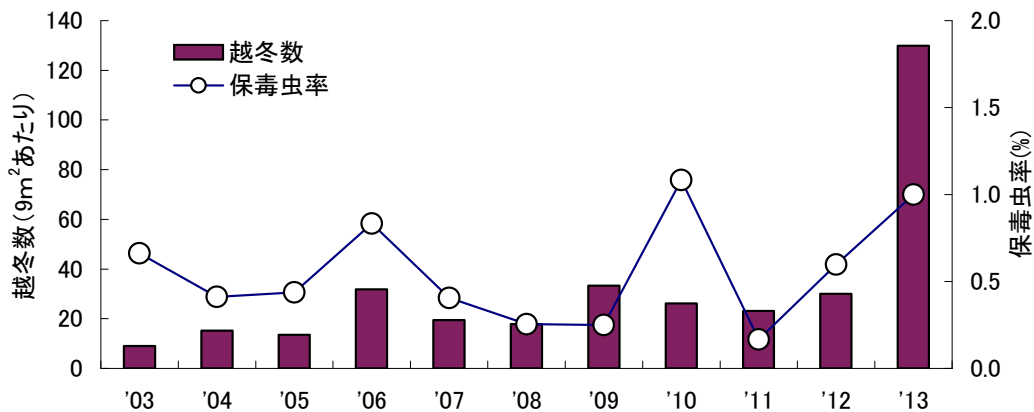


図1 ヒメトビウンカ越冬数と縞葉枯病ウイルスの保毒虫率

表1 ヒメトビウンカ越冬数調査結果^{注1)}

地点	ヒメトビウンカ			
	本年	前年	平年	
横浜 北八朔	18	11	0.8	
藤沢 大庭	10	3	13.3	
海老名 本郷	52	39	4.8	
平塚 広川	14	23	14.3	
	寺田縄	76	34	22.9
伊勢原 下谷	29	6	27.8	
	串橋	789	109	54.8
厚木 飯山	419	68	39.4	
	戸田	115	18	19.4
相模原 当麻	74	28	21.4	
小田原 栢山	39	8	6.8	
	桑原 ^{注2)}	66	44	16.2
南足柄 竹松	34	7	29.7	
開成 吉田島	29	23	5.9	
県平均	126	30	19.8	

注1)調査月日：2013.1.21-31

注2)'09年まで鬼柳

表2 ヒメトビウンカのイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率検定結果

	保毒虫率(%) ^{注1)}			
	本年	前年	平年	
横浜 北八朔*)	4.0	—	—	
藤沢 大庭	0.0	2.1	0.6	
海老名 本郷	4.0	2.0	0.7	
相模原 当麻	0.7	0.0	0.5	
平塚 寺田縄	1.3	0.0	0.5	
伊勢原 下谷	0.0	0.0	0.4	
	串橋	0.7	0.7	0.5
厚木 飯山	0.7	0.0	0.5	
	三田**)	3.3	0.8	—
小田原 桑原 ^{注2)}	0.7	0.0	0.3	
南足柄 竹松**)	0.0	1.3	—	
	保毒虫率 ^(10年データがない地点は除く)	1.0	0.6	0.6
県平均	保毒虫率 ^(全調査地点)	1.4	0.7	—
均	越冬数	126.0	30.1	19.8
	縞葉枯病発生度(9月)		0.0	0.1

注1)調査検体数は各地点150頭調査。ただし、藤沢市大庭は'10年に125頭、'12年は142頭調査。

注2)'09年まで鬼柳 *)'13年のみ調査 **) '12年、'13年のみ調査

4 防除対策および防除上の注意事項

- (1) 初期の防除を徹底するために、ウンカ類に効果のある育苗箱薬剤を施用する。
- (2) 圃場の耕起や畦畔などの草刈を行い、ヒメトビウンカの密度低下を図る。
- (3) ツマグロヨコバイの越冬密度(82頭/9m²)も平年(53.8頭/9m²)よりやや多いため、育苗箱施薬にはツマグロヨコバイにも効果のある剤を使用する。

5 防除薬剤

本田での発生を抑えるために、育苗箱施薬による防除を必ず実施する。育苗箱施薬の農薬例を(表3)に示した。なお、農薬使用の際は、適用作物、使用量、使用濃度、使用時期、総使用回数をラベルの表示により必ず確認する。

表3 ヒメトビウンカに対する稲(箱育苗)施薬例

薬剤名	使用量	使用時期	使用回数
グランドオンコル粒剤	1箱当り50g	移植3日前～ 移植当日	1回
アドマイヤーCR箱粒剤	1箱当り50g	は種時(覆土前)～移植当日	1回
ルーチンアドスピノ箱粒剤	1箱当り50g	は種時(覆土前)～移植当日	1回
ツインターボフェルテラ箱粒剤	1箱当り50g	は種時(覆土前)～移植当日	1回

神奈川県農業技術センター
病害虫防除部

〒259-1204 平塚市上吉沢1617

TEL 0463-58-0333

FAX 0463-59-7411

テレホンサービス0463-58-6612

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450002/>